



## 持続可能な社会に向けての取り組み

まずこの場をお借りしまして、2月17日にH3ロケット打上げに成功したJAXA、並びにプロジェクトにご尽力されたSJAC会員各社にお祝いを申し上げます。1月にはピンポイント着陸に成功した小型月着陸実証機“SLIM”プロジェクトのニュースもあり、最近の日本の宇宙産業の発展は頼もしく、航空宇宙産業に携わっている私どもも大変喜ばしく感じるとともに、良い刺激をいただきました。

さて弊社は、旧帝人製機（株）時代から約80年に亘り、フライトコントロールシステムや、油圧機器、電源関連装置、エンジン・燃料補機を製造し、防衛省や世界の航空機メーカーに提供しております。特に主力製品であるフライトコントロールアクチュエータは、すべての自衛隊機や、ボーイング社の量産機に採用されており、FBWアクチュエータの開発・製造は弊社の強みの一つです。

防衛プログラムでは、グローバル戦闘航空プログラム“GCAP”が非常に重要な新しいプログラムとなりますが、民間航空機事業で培った海外メーカーとの共同開発の経験を活かし、このプログラムに参画することで日本の安全保障に貢献したいと考えております。

民間航空機産業においては、昨年来、産業構造審議会航空宇宙分科会において、業界を取り巻く環境の変化に対応した「航空機産業戦略」の検討・見直しが進められており、3月を目途に改定案が取りまとめられる予定との認識でございます。本戦略の明確化は、日本国内の航空機産業が2050年のカーボン

ニュートラル目標を達成し、国際競争力を強化するために必要かつ有益であると考えており、官民一体となった本戦略の推進を心強く思っております。

このような状況の中、弊社は持続可能な社会に貢献するため、アクチュエータの電動化、小型化、軽量化の技術開発に注力しており、その活動は「航空機産業戦略」に沿ったものであると思っております。昨年のパリ航空ショーでは、ボーイング社と将来のアクチュエータ技術を共同開発することで合意し、最近では、まったく新しいコンセプトの機体であるNASAとボーイング社の共同開発プロジェクト“X-66”に搭載する薄型主翼用アクチュエータの開発をスタートさせました。GX/DXは、航空産業が持続可能な社会に貢献するために必要不可欠なものであり、今後、航空機用アクチュエータの開発をはじめ、幅広い取り組みを積極的に進めてまいります。

視点を変えて航空機産業を見ますと、今なおコロナ禍の影響を受ける業界サプライチェーンにおいて、日本企業は高品質・納期厳守の強みを発揮し、海外の機体OEMからその実力を再評価されていると認識しております。

今後も、高品質・納期遵守率の高いものづくり力・技術力において弊社が得意とするニッチ分野での競争力を強化し、我が国の安全保障、且つサステナブル社会の実現に向けた航空機産業の貢献に少しでも寄与できるよう、全力を尽くしてまいります。